

編 集 後 記

今回の紀要は9号となり、来年10号という節目を迎えます。大学は、短期大学時にリハビリテーション学科が開設されて大学へと移行し、13年目に入りました。そして、今回の紀要には卒業生の初投稿がある一方で、開設当初からご尽力頂いた鈴木康三教授が退官を迎えられます。先生の教え子が各地で活躍し、紀要投稿を果たすまでもなりました。社会では、医学と医療がグローバル化する傾向にある中、理化学研究所の小保方晴子ユニットリーダーが、画期的な論理と手法で万能細胞であるSTAP細胞の作製に成功されました。それに加えてロボット工学の医療進出、3Dプリンターによる臓器再生などの新技術も今後の医療に多大な影響を与えることは確実です。大学は少子化、教育レベルの低下という難しい局面を打開すべき対応を進めつつ、世に貢献できる研究結果を出し続けなければなりません。教育と研究の難しいバランスをとりつつ、紀要を研究の成果や現状報告の機会にして頂ければと考えます。

紀要編集委員会

四條畷学園大学 リハビリテーション学部紀要 第9号

Annual Reports of Faculty of Rehabilitation,
Shijonawate Gakuen University

平成26年3月 印刷発行
発 行 四條畷学園大学
大東市北条5-11-10
印 刷 敷島印刷株式会社
大阪市東成区東今里2-10-5
